

令和 6 年度 綾部市特別職報酬等審議会（第 1 回会議）議事録要旨

1. 日時

令和 6 年 1 1 月 2 8 日（木）午後 1 時 3 0 分から 2 時 5 8 分まで

2. 場所

綾部市まちづくりセンター 第 1 会議室

3. 出席者

（1）委員（7 名）

高倉正明、山崎栄市、植田昌代、白波瀬博之、吉崎進、林多嘉子、泉朝子

（2）事務局（5 名）

市長、市長公室長、職員課長、職員課職員（2 名）

※市長は諮問の後、退席

4. 次第

（1）市長挨拶

（2）委嘱状交付

（3）委員紹介

（4）会長選出

（5）諮問

（6）審議

5. 諮問内容

（1）議会の議員の報酬額について

（2）市長、副市長及び教育長の給料額について

（3）改定実施時期について

6. 審議内容

※事務局による資料説明後、質疑

※質疑要旨は以下のとおり

- ◆進 行 本日の議論では、報酬を維持するのか、増額するのかというところまで話を詰められたらと考えているので、そのことを念頭に置いて協議いただきたい。
- 委 員 平成 8 年から平成 2 2 年までの間で行財政健全化があったということだが、平成 2 2 年と現在を比べて、綾部市の財政状況は良くなっているということでしょうか。
- ◎事務局 ご質問のとおり、財政状況は改善されているといえるが余裕があるわけではない。
- 委 員 給料や報酬は、平成 2 3 年以降、今も減額されている状態なのか。
- ◎事務局 平成 2 2 年に審議会を開催した際に、維持・増額・減額について様々な議論を行っていただいたが、結論は行財政健全化による減額後の金額をベース

に答申があったため、現在も同様の金額である。

- 委員 前回の審議会開催からずいぶん経っているが、財政は一定改善されてきたということになると思う。市長は15年目（4期目）とのことだが、市長の任期によって、長くなると給料額は高くなるものなのか。それとも給料額に年数は換算されないものなのか。

◎事務局 新人市長でもベテラン市長であっても、給料額は、条例に定められており、年数の換算はない。

- 委員 前回から年数が経っている中で、今の社会情勢も考慮しないといけないと考えているが、若い人が議員に立候補しようとしても給料が安い、子育てが難しい給料額であるという話がある。しかしながら、財政状況を踏まえると、議員数が18人という中で、大きく金額を引き上げるとその分大きな影響があると思う。他市の状況とも比較しながら審議をしていければと思う。

- 委員 世間的には物価高騰や賃上げがある中で、実際他市の審議会の開催状況はどうなっているか。

◎事務局 京都市は数十年ぶりの開催、宮津市は令和5年度（23年ぶり）、福知山市は毎年開催、舞鶴市は令和3年の開催、南丹市は令和5年度開催となっている。

- 委員 市内の民間企業の状況はどうか。

- 委員 今年、最低賃金が引き上げられ、京都府は1,058円（+50円）になった。月額で換算すると8,000円の賃上げになる。中小企業では正社員の定期昇給で8,000円の増額ができていないのに、パートの方だけ最低賃金にあわせて賃上げを行うと、正社員のモチベーションを保てない。しかし正社員を8,000円上げるとなると財源をどうするか苦労されているという話がある。

- 委員 平成22年から久しぶりの開催となったが、その理由は何かあるのか。

◎事務局 民間の景気が下がり基調または水準維持の方向であったことに加えて、コロナ禍という状況もあったことから、諮問のタイミングが今回になったものの。

- 委員 議員報酬が平成22年から変わっていない、上がらないままの形になっているのは見直しが必要だと思う。金額については財政状況なども思案する必要があると思う。

- 委員 前回の審議会の新聞記事で市民感情を勘案してとあったが、なかなか見えてこない部分であるので市民感情をどの程度考慮すべきか判断が難しいところ。しかし、長い間給料が上がらないままというのもどうかと思うので、少しでも見直しができればと考える。綾部市は財政規模が小さいので、財政にどのくらい響いてくるのかも考えなければならない。

- 委員 一市民として見たときに、特別職の活動内容は一般市民にはなかなか伝わっていないところがある。一方で私の立場から見ると、上げたいという思いもある。市民感情を考えると、特に議員は活動状況がよくわからないため意

見が多く出ることもあると思う。議員報酬については、子育てや議員活動をするに当たっても、厳しい状況であるところは見直さないといけないと思う。

- 委員 何を基準にして見直すべきか分かりにくいところではあるが、前回から14年が経過して、社会情勢、コロナ禍、綾部市の人口ビジョンの検討、外国人の増加など複雑多様化している中、上げるか上げなくてよいかという判断で言うと物価高騰、最低賃金の引上げ、土日関係のない活動などもあることから、上げて当然ではないかと思う。
- 委員 今回初めて参加させていただいたが、民間企業や一般職については少しずつ毎年賃上げがあるのだから、特別職も財政状況や経済状況に関係なく報酬を上げてよいのではないか。
- 委員 市民にどう納得してもらうかが必要になると思う。審議会は毎年実施できないか。今回のように期間が空いてしまうと判断が難しくなってくる。また、毎年審議会を行っている方が市民の理解も得られやすいのでは。
- 委員 特別職は勤務時間の定めがなく、公務の線引きは難しいと思うが、報酬を上げるなら根拠を示すことも審議会の役目ではないか。市民の関心も高いと思うので大事なところ。類似団体は、人口は同規模だが、面積に大小ばらつきがあり、地域差もあるので、比較するのが難しいところもあるが、現状は似たような金額であるかと思う。
- 委員 事務局として、どのくらいの財源で上げれば良いか数値的な案はあるか。
- ◎事務局 財政支出の観点だけで言えば、現状維持としたいところだが、いろいろな意見を踏まえ判断していきたいと考えている。京都府内の他市と比較すると、綾部市は下位の方に位置しているが、例えば副市長の給料額は極端に低い数値ではない。また、全国の類似団体と比較すると、平均値より上位ということも踏まえていただき、判断は難しいが、皆さんに考えていただければと思う。
- 委員 類似団体で全国規模をみて検討するか、京都府下を比較して検討するかになると思うが、市民感情としては身近な近隣市との比較の方が大事になるのではないか。綾部市の考えとしては、近隣市との比較で検討していくべきではないかと思う。
- 委員 物価は平成8年と比較して確実に上がっている。最低賃金も同様に上がっているが報酬は上がっていないのは違うように思う。基準でいうなら減額前の平成8年是一个の基準になるのではないか。市民感情という、あの人ならこれだけもらっても良い、この人がこれだけもらっているのは・・・となるのが市民感情だと思う。そこが難しいところ。
- 委員 これまでの見直しの際に、全国レベル（類似団体）での数値を意識されているか。例えば家賃では、地方によって基準が全く異なる。そのようなことを考えると、全国よりも近隣市が判断基準になるように思う。
- 委員 前回の審議会では、全国の数値を気にした意見はあったか。

- ◎事務局 前は第2回の審議会において、議員報酬は類似団体と比較してどうかという意見が出ていた。その際は類似団体の中では高め、ただし地域によって極端に低いなどばらつきがあると事務局から回答した。
- 委員 議員報酬は、元々過去（昭和55年）の賃金ベースが低いのか。民間企業の昇給率と比較して、過去の改定率が低いとは思わないが。過去の報酬額の近隣市との比較資料はあるか。
- ◎事務局 審議会では、毎回他市との比較が議論の中心になっており、過去の金額は他市と大差はないと思われる。
- 委員 議員報酬の引き上げは、一般市民としては気になるところ。なぜ上がるのかと思うのではないか。
- 委員 議会報告会では、議員報酬を「上げてほしい」「下げてほしい」両方の意見が必ず上がる。どのくらいの金額が妥当かというのはなかなか難しいところ。
- 委員 平成22年の改定率（市長等はマイナス10%、議員はマイナス5%）はすごく大きいと感じる。平成8年に戻すということを考えると、今回で一気に戻してしまうのではなく、その半分の議員であれば2.5%引き上げるのが妥当ではないかと考える。今回の議論では上げるという意見が多数ではあると思う。
- 委員 上げないといけないと思うが、その根拠をどうするか難しいところ。再確認になるが、平成15年の減額は自主カットで間違いないか。
- ◎事務局 間違いない。
- 委員 民間企業からすると、特別職の報酬は一般職と違って特殊であり、一般企業の従業員と比較する対象が違うから、そこまで風当たりや影響は強くないと思われる。
- ◆進行 先ほどの意見のとおり、平成8年の減額前の報酬水準まで戻すではないが、一定の引上げを検討するというところでよいか。
- 委員 引上げの案、財政への影響額などを資料として示してもらうことは可能か。
- ◎事務局 お示しできる。
- ◆進行 具体案については次回、事務局からいくつかのパターンを示してもらうことでよいか。
- 委員 異議なし。
- ◆進行 次回の日程は。
- ◎事務局 次回は12月26日（木）午前10時からの開催でお願いしたい。
- 委員 了解。
- ◆進行 次回もよろしく願います。以上で本日の審議は終了とする。